

グランプリ

日本初、下水道へのコンセッション方式導入

浜松市

コンセッション浜松方式の特徴

● 事業概要

対象施設：西遠浄化センター
浜名中継ポンプ場及び阿蔵中継ポンプ場
（管きよ及び上記施設の土木・建築物の改築は除く）
事業範囲：経営、改築、維持管理など
事業期間：20年（平成30～49年度）

● 導入スケジュール

平成17年7月／12市町村合併（7処理区編入）
（西遠流域下水道区域がすべて浜松市に）
平成26年度／事業スキーム検討・資産調査等
平成28年2月／実施方針公表・特定事業の選定
平成28年4月／静岡県から事業移管
平成28年5月／募集要項等公表
平成29年3月／優先交渉権者の選定
平成29年10月／運営権設定・実施契約締結
平成30年4月／コンセッション事業スタート

● 西遠処理区域図



- 現有処理能力（日最大）：200,000m³/日
- 処理人口：464,859人（平成28年度末）
- 排除方式：分流式

特徴1 部分型コンセッション

- ✓ 浜松市内11処理区のうち1処理区の終末処理場と中継ポンプ場が対象。
（管きよは、他処理区と合わせて市が管理した方が効率的であるため対象外とした。）
- ✓ 官民の適正な役割分担により効率化を実現。

特徴2 改築と維持管理の長期間・一体的マネジメント

- ✓ 20年間の長期間にわたり、計画立案～工事～維持管理までを一体的に委ねることで、効率的な運営を促し、LCCの最小化・平準化を実現。

PRポイント！

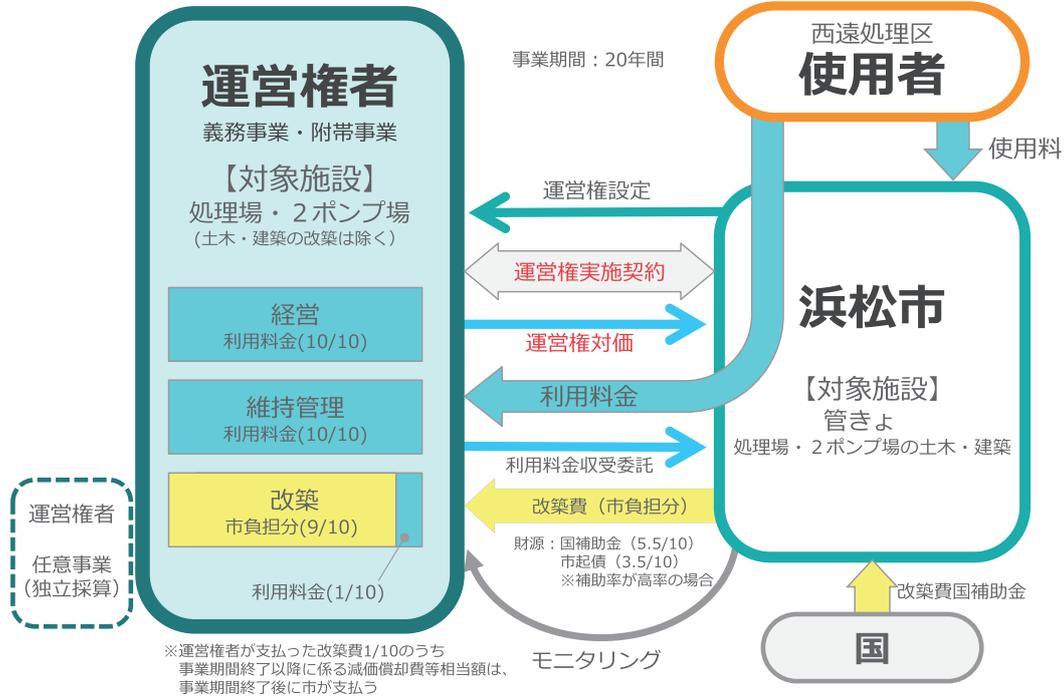
浜松市では、厳しい経営環境のなか、「民間でできることは民間で」の方針のもと、持続可能な経営体制の構築に向け、民間事業者の創意工夫及び資金等を活用した官民連携の導入を推進しています。

西遠浄化センター及び2ポンプ場は、平成28年4月に静岡県から浜松市に事業移管された施設です。市では移管に伴い、①運営の一層の効率化を図り、②職員の増員を抑えつつ移管を受ける必要性がありました。これらを解決するため、民間活力の導入方法を検討した結果、コンセッション方式の採用が最も効果が高いとの結論に至りました。様々な議論を重ねて、下水道事業の特徴や本市の実情に合わせた「コンセッション浜松方式」を作り上げ、平成29年3月に優先交渉権者を選定したところです。平成30年4月から、日本初の下水道分野におけるコンセッション方式がスタートします。

特徴3 混合型コンセッション

- ✓ 効率的な運営を促すため、**経営・維持管理に係る費用は全額運営権者の負担。**
- ✓ **改築については、効率的な改築を促しつつ、減価償却費増により法人税負担が過度に偏ることを避けるため、運営権者が1/10を負担**することとした。

●コンセッション浜松方式スキーム図



事業効果

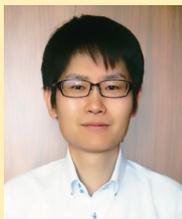
優先交渉権者（ヴェオリア・JFEエンジ・オリックス・東急建設・須山建設グループ）の提案



- ✓ VFM **14.4%** 事業費総額**86.6億円削減**※
- ✓ 運営権対価**25億円** (公募時は0円以上で提案によるものとしていた)
- ✓ 市の経営改善、使用者負担及び国費の縮減
- ✓ 民間の創意工夫を活かした魅力的な提案

※PSC：公共が自ら事業を実施する場合の事業費、PFI LCC：PFI事業として実施する場合の事業費、VFM(Value For Money)：PSC－PFI LCC
 ※PSC及びPFI LCCは現在価値換算後

Key Person



上下水道総務課
内山 輝義

本事業には、これまで国への派遣、市の現場部門、総務部門を異動しながら3年以上にわたり各立場で携わってきました。現場には足しげく通い、県の方々には施設の状況を丁寧に教えていただくとともに、公募資料作成に向けた調査にもご協力いただきました。また、検討が進むにつれ顕在化した様々な課題に対しては、市の総務・料金・工事・施設の各部門が何度も議論を重ね解決を図りつつ、制度面の課題に対しては、国において制度改革をしていただきました。さらに、民間事業者の方々からのご意見を踏まえることで、官民双方にとって有益な事業スキームを構築でき、2グループから魅力的な提案をいただきました。今後は、本事業が全国のモデルケースとなるよう、平成30年4月の事業開始に向けた着実な準備を行ってまいります。